

12. 皮膚科実績

皮膚科 妹尾 明美

2015年度はスタッフの入れ替わりが煩雑であり、眞部恵子医師の後任として4月より斉藤まり医師が着任され、6月より牧原亜矢子医師の出産に伴い実質三人体制から、二人体制に戻った。岡山大学より水曜午前に梅村医師、火曜午前に杉本大学院生の応援医師による支援をいただき、大過なく診療は行えた。ただ病院全体の流れもあり、外来患者数は2014年より下降傾向に入り、過去最低となった。しかし、紹介患者さんの割合が増え、一人一人が重症化の傾向にある。

入院患者は急性期疾患がやや増加みられ、2013年の毎月一日平均2.9人、2014年の2.4人から本年は3.4人と増加した。

年代別外来患者数推移

2009年度の新患者数 2,431人、 再来数 14,645人、 総計 17,067人
 2010年度の新患者数 2,397人、 再来数 15,673人、 総計 18,070人
 2011年度の新患者数 2,420人、 再来数 15,046人、 総計 17,466人
 2012年度の新患者数 2,446人、 再来数 14,598人、 総計 17,044人
 2013年度の新患者数 2,524人、 再来数 14,538人、 総計 17,062人
 2014年度の新患者数 1,957人、 再来数 13,547人、 総計 15,504人
2015年度の新患者数 1,869人、 再来数 11,618人、 総計 13,478人

年代別地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

	紹介数	紹介率	紹介数	逆紹介率
2009	240	21.10%	89	7.10%
2010	275	27.10%	122	11.00%
2011	280	25.20%	95	7.60%
2012	294	24.40%	96	7.40%
2013	302	25.40%	101	10.30%
2014	311	26.2%	262	28.3%
2015	347	27.9%	318	25.6%

紹介率は、25%前後からわずかではあるが上昇みられている。

医師数の減少のため2014年は逆紹介率を増やしたが、紹介先の乏しい皮膚科としてかなり無理があったように思う。

総合病院皮膚科としては 三人体制であり、難治な水疱症、重症薬疹、蜂窩織炎をはじめとする重症感染症、蕁麻疹、自己免疫アレルギー疾患の希少重篤例などは入院していただき十分治療することを目標としたい。確実に紹介元が三豊観音寺地区をはじめ、広域におよび中讃、徳島県からも増加してきている。

皮膚科地域別紹介元

紹介元住所		割合
四国中央市	75	15.66%
その他愛媛	2	0.42%
観音寺市	187	39.04%
三豊市	162	33.82%
丸亀市	22	4.59%
坂出市	1	0.21%
高松市	6	1.25%
その他香川県	11	2.30%
三好市	5	1.04%
その他徳島県	1	0.21%
その他	7	1.46%
合計	479	100.00%

学会発表では全国規模の脈管膠原病研究会に強皮症例を報告した他、地方会でも顆粒球除去術を行った膿疱乾癬例、ポリファーマシーに伴う薬剤性下腿浮腫例などを発表した。

今後も皮膚科患者の数より質を目指したい。地域のクリニックで難治な患者さまの例の紹介を受けたいと思っている。